

令和6(2024)年度日本歴史研究コース授業計画

授業名	分析調査論			
担当教員	齋藤 努			
授業概要	【講義・実験】歴史資料を自然科学的に分析する研究方法について、考古学・文献史学・技術史学など人文科学的視点からの資料選定、問題解決に最適な分析手段の選択、得られたデータに対する両分野からの議論といった一連の過程に沿って進めていく。			
教育目標・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史資料を自然科学的な視点から解析するための、様々な分析手段について知識を得ることができる。 ・得られた分析データの意味と、分析方法・歴史資料のもつ特性に付随するデータの信頼性や限界について理解できる。 ・自分が必要な情報を得るためにはどの分析手法が最適であるかを選択できる。 			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 20% ・講義と6割以上の出席率 60% ・口頭試問 20% 			
授業計画	1. ガイダンス「文化財科学について」	9. 「統計の扱い方と注意点」		
	2. 「内部形状と状態の観察」	10. 「年代測定 1」		
	3. 「元素の定性・定量分析」	11. 「年代測定 2」		
	4. 「さまざまな非破壊分析法の特徴」	12. 「産地推定分析 1」		
	5. 「有効数字の意味」	13. 「産地推定分析 2」		
	6. 「さまざまなマイクロ分析法の特徴」	14. 「産地推定分析 3」		
	7. 「金属の製錬（鉄・銅）」	15. 「分析試料の採取法」		
	8. 「金属の製錬（金・銀）」			
実施場所	国立歴史民俗博物館	使用言語	日本語	
前期・後期の別	前期・後期・ 通年	対象年次	3, 4, 5	単位数 2単位
教科書・参考図書	【いずれも参考図書】 齋藤努『金属が語る日本史-銭貨・日本刀・鉄炮-』吉川弘文館（2012） 齋藤努編『青銅器の考古学と自然科学』朝倉書店（2018） 齋藤努監修『必携 考古資料の自然科学調査法』ニューサイエンス社（2010）			
備考				